

(令和3年7月試験研究業務月報)

業務課題：ホンダワラ等有用褐藻類の増養殖技術に関する調査

情報

アカモク養殖用種苗の生産

近年、全国的に需要が拡大している食用海藻「アカモク」ですが、天然ものは資源の年変動が大きく、収穫量が安定しないことが問題でした。京都府では全国に先駆けて、アカモクの安定利用に向けた種苗生産および養殖技術の開発に取り組んだ結果、近年では府全体で数十トン規模での養殖アカモクの生産が可能になりました。現在、当センターでは独自に開発した特許技術を用いて養殖用種苗の生産を行っています。

アカモク養殖の生産サイクルは、陸上の水槽で育てた種苗を10月頃に海面の養殖施設に展開して翌2月頃に収穫するもので、現在は陸上生産（立体攪拌培養[※]）の段階です。今年も夏場の海水温は平年より高めで推移すると見られ、沿岸の海水を取水して行うアカモクの種苗生産にとっては厳しい条件になると予想されます。良質な種苗を必要量確保するため、過去の知見を活かしたきめ細かな調整・管理を行っています。

※ 立体攪拌培養：水槽底面から空気を出し、種苗を攪拌しながら培養する方法。個々の種苗に光がまんべんなく当たることで成長が促進される。（特許取得技術）



培養開始時の種苗（5～10mm）



1000L 水槽による培養